

授業科目 発達障害作業療法評価学

科目コード番号

【担当教員名】 永井 洋一	対象学年	2	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【概要】

発達障害とは人生の初期に受けた障害が個人の生涯にわたってさまざまな能力に大きな影響を及ぼすものであり、成人期の障害と異なるさまざまなニーズが存在する。これらのニーズを正確に把握し、作業療法の治療が有効にかつ効率的に行われるためには、作業を遂行するための要素と作業そのものの遂行を評価し、問題点を抽出し、作業療法治療プログラムを立案しなければならない。しかも、多くの場合小児が対象となるので、彼らの発達の特性に適合するよう、評価や治療を実施する必要がある。本科目と発達障害作業療法評価学演習では、そのために正常発達に関する基礎的な知識を学び、発達のさまざまな領域を評価するための技術を身につける。

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	作業療法学全書第3巻 作業療法評価法	日本作業療法士協会	協同医学出版社	2000年
	作業療法学全書第6巻 発達障害	〃	〃	2000年
参考書	発達障害と作業療法【基礎編】	岩崎清隆	三輪書店	2001年
その他配布資料	プリントを配布する			

【評価方法】

出席(10%)、授業への参加態度(10%)、中間試験(2回:30%)、期末試験(50%)

【履修上の留意点】

1年次の人間発達学を履修していること。
授業中に参考図書やビデオを紹介するので、なるべくそれらに触れておくことが望ましい。

【本科目の一般教育目標:GIO (General Instructional Objective)】

発達障害に対する作業療法の評価が遂行できるために、正常発達に関する基礎的知識と、それらの障害を評価するための知識を身につける

【行動目標:SBO (Specific Behavioral Objectives)】

1. 発達障害に対する作業療法における評価の特徴を説明できる
2. 発達評価のスクリーニングと領域別評価の目的を説明できる
3. 小児期における運動・姿勢の発達とその評価方法を説明できる
4. 小児期における目と手の協調運動の発達とその評価方法を説明できる
5. 小児期における知覚・認知の発達とその評価方法を説明できる
6. 小児期における心理社会的能力の発達とその評価方法を説明できる
7. 小児期における日常生活活動・適応行動の発達とその評価方法を説明できる

授業計画

教室

回数	授業内容	SBO 番号	担当教員	教授学習法	学習課題 又は 備考
1	発達障害の作業療法評価総論	1	永井	講義	
	正常発達の知識と評価の基礎				
2,3	1. 1) 運動と姿勢の発達	3			
4	2) 目と手の協調性の発達	4			
5,6	2. 知覚・認知の発達	5			
7	3. 心理社会的能力の発達	6			
8	4. 日常生活活動・適応行動の発達 (遊びを含む)	7			運動発達・知覚認知の発達に関する中間試験
	主な評価方法に関する知識				
9	1. スクリーニングと領域別検査	2			
	2. 運動・姿勢発達の評価	3			
10	3. 目と手の協調性発達の評価	4			
11	4. 知覚・認知発達の評価	5			
12	5. 心理社会的能力発達の評価	6			
13	6. 日常生活活動・適応行動発達の評価	7			評価方法に関する中間試験
14	まとめ				

その他